

墓地多様化 お参りに選択肢

今年もお盆の時期を迎えた。近年は墓地の多様化が進み、デジタル技術を導入した納骨堂や、夫婦向け、ペット愛好者向けの墓などが登場。新型コロナウイルス下で業者の代行サービスが定着したほか、仮想現実(VR)の技術を使ったお参りなど選択肢が広がる。(柏葉竜)

仙台市青葉区北目町にある
天台宗の賢聖院は2022年
8月、鉄筋コンクリート平屋
の現代的な建物内に、遺骨6
00柱を保管できる納骨堂
「メモリアル仙台五橋」をオ
ープンさせた。

平日にふらっと

デジタル技術を使った祭壇
3基を備える。利用者用カー
ドのQRコードを祭壇の読み
取り口にかざすと、縦14センチ、
横22センチのタッチパネルに故人
の名前や遺影、生年月日、好
きな言葉などのほか、思い出
の写真も映し出すことができ
る。

デジタル納骨堂 ペットと一緒に 遠方からVRで

盆や彼岸だけでなく、平日の
昼休みや買い物帰りにふらつ
と来る人もいる。これこそ新
しいお参りの形」と言う。

JR仙台駅から徒歩約10分
の立地。手ぶらでお参りでき
るよう、施設側が季節の花を
常に供え、線香も用意する。
利用料は、納骨1人、期間は
十二回忌までの場合で30万円
になる。期間満了後は合祀墓
に移す。

近くに住む無職の場見治
さん(84)は22年11月、病気で亡
くなった妻の遺骨を納めた。
「酒田市に実家があるが、次
男のため自分の墓がない。車
がなく郊外の墓地には行けな
いので、徒歩圏内の場所にし
た」と選んだ理由を語る。

月命日のほか、仙台駅周辺
に用事があるときも納骨堂に
立ち寄る。お参りは月に2、
3回。妻の遺影に「また来た
よ」と心の中で声をかけ、手
を合わせる。

納骨堂の約4分の3は契約
済みだ。管理する石材業「メ
モリアル石材」(宮城県利府

町)の遠藤正明社長(55)はお

けている。時代の状況に合わ
せたお墓を提供していきたい
」と話す。

代行サービスも

盛岡市の「吉昭石材工業」
は約10年前、墓参りの代行サ
ービスを始めた。コロナ下の
帰省自粛などの影響で申し込
みが増え、年10件ほどの依頼
を受ける。

同社が加盟する「全国優良
石材店の会」(全優石、東京)
は20年に、VR技術を活用し
たバーチャル墓参りのサービ
スを開始した。加盟店のスタ
ッフが360度カメラで墓を
撮影し、VRゴーグルを装着
した依頼主が遠隔地からでも
お参りを体験できる。料金は
2万7500円から。

全優石によると、バーチャ
ル墓参りは首都圏などで一定
の利用があるが、東北ではま
だ依頼が少ない。吉昭石材工
業での利用実績は1件にとど
まる。

吉田拓也社長(45)は「利用
が少ないのは知名度不足のた
め。実際に墓参りしているよ
うな臨場感があり、存在が知
られれば依頼は増えるはず
だ」と強調。機材を店舗に置
き、来店者にVRを体験して
もらうことを検討する。



デジタル祭壇のモニターに映し出された遺影に手を合わせる的場さん=仙台市青葉区メモリアル仙台五橋

デザイン墓 東北で急増 22年初の和型超え

東北の墓の形は、故人の趣味
な縦長の和型は25・5%(31・
や人柄を反映させた「デザイン
墓」が急増中。全国優良石材
店の会(全優石)が2022年、
全国の墓の購入者1655人に
実施したアンケートでこんな現
状が分かった。

東北で新しく建てた墓は、横
長の洋型が37・5%(全国46・
0%)で最も多く、デザインが
29・0%(15・6%)、伝統的
を、全優石の担当者は「東日本
8割減とほぼ横ばいだった。

大震災からの復興が一段落し、
自分たちの価値観を反映させた
形で墓を建て直したいという二
人、一組に、1988年の調
査開始以来初めて和型を超え
た。全国9地域別でも北海道の
30・0%に次いで高かった。

仙台市内の墓地では、サッカ
ーボールやピアノ、マジシャン
比へ22年は15・9割低下。耐震
性に優れた洋型は震災後から根
強い人気があり、12年比で1・